

午後 試験

問 1

問 1 では、生産管理システムの再構築を例にとり、業務改革及び関連システムとの連携を踏まえた情報システム構造設計について出題した。全体として、題意はよく理解されていたようであった。

設問 1 は、優位性については正答率が高かったが、リスクについては、在庫過剰か在庫不足のどちらか一方の解答が多かった。

設問 2(1)は、製品組立計画に渡すべき情報について、受注情報の一部である、納期又は受注数だけの解答が散見された。

設問 3(2)は、正答率が低かった。設計システムと生産管理システムの基準情報管理サブシステムとの間の情報連携をどのようにしようとしているかを読み取ってほしかった。

設問 4(1)は、製品組立で使用するユニット品は、見込生産されており、その在庫を引き当てる必要があることに気づいてほしかった。(2)は、機能モジュール名と考慮すべきことが整合していない解答が散見された。

システムアーキテクトとして、業務要件を理解・把握し、それを実現するシステム機能構造とその機能間の情報関連を明確に定義できるよう心がけてもらいたい。

問 2

問 2 では、銀行の債券システムを例にとり、窓口業務を担うフロントシステムと、後方事務の業務を担うバックシステム間の連携、及びシステム間の照合について出題した。全体として、題意はよく理解されているようであった。

設問 1 は、取消レコードを考慮していない解答が散見されたが、おおむね理解されているようであった。

設問 2(3)は正答率が低かった。背景記述にある集計データの照合では、不整合が発生した場合、その原因となる個別の取引が特定できないことを読み取ってほしかった。ここでは現状の照合機能で不整合があった場合にいて問うたが、照合する属性の妥当性などについての誤った解答も散見された。

設問 3 は、移植機能についての正答率は高かった。追加機能については、移植すべき機能について問うているにもかかわらず、移植しない集計機能に関する解答が散見された。

システムアーキテクトとして、業務要件を理解・把握し、適切な機能設計ができるよう心がけてもらいたい。

問 3

問 3 では、固定資産管理システムを例にとり、既存システムの問題点についての機能改善について出題した。

設問 2 は、今回のシステム改善で最も重要な枝番の追加に関する問題で、“同じ資産番号の資産のうち、ある資産シールを複数回読み取ることによって照合したとみなされる” 現行システムの問題点をどう解決できるかを考えるものであったが、同一のバーコードを、連続して複数回読み取ったり、日を分けて読み取ったりするケースを考慮していない解答が多く、正答率は低かった。

設問 3 は、想定より正答率が低かった。要求されているレコード名を記述していない誤った解答が散見された。

設問 4 の(2)は正答率が低かった。“遠隔地の資産は現物照合の対象から外す”、“遠隔地の資産シールは管理担当者が保管して一括してスキャンする” といったシステム化の目的を無視した本末転倒の解答も散見された。現状の問題点である“本当に資産が存在しているか確認できていないこと”、“口頭報告で聞き間違いが起きること” に気づけば、それを解決する運用の変更点が導けたと思われる。

システムアーキテクトとして、常にシステム化の目的を念頭に置いた設計・開発を行うよう心がけてもらいたい。

問 4

問 4 では、デジタルサイネージ統合システムを例にとり、システムアーキテクチャの検討及び機能仕様の策定について出題した。全体として、題意はよく理解されていたようであった。

設問 1 は、正答率は高かったが、本システムの基本機能を理解していないと思われる解答も散見された。

設問 2 (1) では、無線 LAN や電源コンセントの設置にかかわる解答が散見されたが、システムの開発段階で考慮すべき課題を答えてほしかった。

設問 3 は、正答率は低かった。“サーバの内部構成”の記述や表 2 を理解すれば、正解を導けるはずである。

設問 4 は、正答率は高かった。ディスプレイ端末の入出力機能についてはよく理解されているようであった。

システムアーキテクトとして、システム開発の要件を理解し、その実現を最適化するためのシステムアーキテクチャ、各構成要素、及び必要な情報を明確に定義できるよう心がけてもらいたい。